

校長式辞

春が訪れ白梅や紅梅も咲き、市来の山々も、冬の眠りから覚めて、新たな命を育む万物が躍動する季節となりました。今日ここに、鹿児島県教育委員会をはじめ、多数のご来賓・保護者の皆様の_ご臨席をたまわり、鹿児島県立市来農芸高等学校、第七十回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより本校生徒・職員にとりまして、誠に喜ばしいことであり、厚くお礼申し上げます。

ただいま卒業証書を手にした49名のみなさん、卒業おめでとうございます。3年間を振り返りますと、1年生での義務入寮の期間では、大変不自由な中での自分のあり方、人との接し方を学び、2・3年生では、普通教科はもちろん、専門の学習に取り組み、実践力を身につけました。その全課程を修了した証の卒業証書です。努力の結晶をその手にし、やりとげたい思いで胸がいつぱいであろうかと思えます。

保護者の皆様におかれましては、今日の日を迎えてその喜びはいかばかりかと思ひ、心からお祝い申し上げます、深く敬意を表します。

卒業生の皆さんは、一昨年度九州学校農業クラブ連盟事務局として、九州大会をここいちき串木野市で開催し、すばらしい大会運営・心温まる歓迎等、九州のクラブ員に感動を与えた大会を体感しました。そして卒業年度に、来年度開催される日本学校農業クラブ全国大会鹿児島大会に向けて、カウントダウンボード作成や1年前イベント等本校後輩の生徒が自信を持って開催できるように段取っていただきました。また、体

育彩では、競技の部・応援の部で完全優勝を果たし、文化際でもひたむきで一生懸命なパフォーマンスが来場者を魅了しました。卒業生をはじめ一人一人が素晴らしい能力を発揮し、生長し、部活動、学業面でも成果を残しました。

特に今年度は、5年に1度の全国和牛能力共進会が宮城県で開催され、県代表として復興特別出品区「高校の部」に畜産部10名で参加し、優秀賞4席の輝かしい実績を残し、いきいき教育活動表彰も併せて受賞しました。また、養豚班は、本校産鹿児島黒豚を「金の桜黒豚」としてブランド化し、ロゴマークと併せて発信、地域貢献に大きく寄与しました。俳句では、南九州市川辺市かわなべ青の俳句大会で

七年連続十三回目の学校賞。福永耕二賞もいただき川辺の岩屋公園に1年間プレートで飾られています。ぎふ・関全国子ども俳句コンクールでも惟然大賞を受賞しました。本当に頑張ってくれました。進学や就職の進路先は、農業関係はもちろん幅広い分野に決定しました。毎日毎日が観劇の日々でした。本当にありがとう。この3年間の学びを忘れることなく、これからも自分らしさを磨き、社会人として地域に貢献できる人として育ってほしいと思います。

近年、日本は近隣諸国を含めた不和による経済不安、地球温暖化や火山活動の活発化、各地で発生する地震等生存環境さえ脅かされる状態が起きています。日本の人口は1億2502万人ほどで年々減少傾向にあります。しかし、世界の人口は、増加傾向で、現在74億4千万人を越えたと言われ、わずか1年間ほどで日

本の人口分増えています。地球規模で考えると、衣食住は今以上に必要となり、着るもの、食糧、住居について20年、30年先を見据えて考える必要があると思います。いかなる場面が生じても、これらを克服し、新しい幸せな時代を創るのは、皆さんのような若い人たちの発想と努力です。

私は、今まで皆さんに、「これからいろいろなチャンスをつかめるように日々の学力や体力等の準備をしておきなさい。」と言ってきました。この後、皆さんはそれぞれ違った道を歩き始めますが、本校で学んだことを土台にして、それぞれの将来の目標に向かって挑戦していかなければなりません。

人は皆それぞれ顔形が違うように、個性や能力にも違いがあります。他人にはない個性やすばらしい能力を誰でも持っています。「自分を大事にし、自分らしく生きる」自分の能力を伸ばそうとする努力を続けてほしいと思います。これから皆さんは、多くの問題に直面するでしょう。市来農芸高等学校で学び培った校訓の「至誠」「自律」「敬愛」を胸に、自分自身で正しく判断し、自らの可能性を信じ、健康に留意しながら、夢に向かって大きく羽ばたいてください。

最後に、もう一つ忘れてはならないことがあります。それは無事卒業できたことへの感謝の気持ちです。先生方の熱心な指導、家族や友人の心温まる支え、本日まで卒業生を見守りいただいた来賓の方々や地域の方へ「ありがとう」の思いを忘れず明日に向かって邁進してください。

卒業生の皆さんの活躍を期待しながら、前途に幸あ

らんことを祈念いたしまして、式辞とします。

平成三十年三月一日

鹿児島県立市来農芸高等学校

校長 本村 信

一